

見えない障害を理解する：
高次脳機能障害の正しい理解と支援のヒント

高次脳機能障害とは ー「見えない」障害を理解する

国際医療福祉大学 保健医療学部 言語聴覚学科
櫻岡絵里香（言語聴覚士）



セミナーの内容

1. 高次脳機能障害とは
ー「見えない」障害を理解する
2. 日常生活への影響と対応の基本1
ー注意障害・記憶障害・遂行機能障害
3. 日常生活への影響と対応の基本2
ー社会的行動障害
4. 日常生活への影響と対応の基本3
ー失語症
5. 高次脳機能障害のある人を支える地域連携



脳の障害

一般的に持たれるイメージは??

- ✓命に関わる
- ✓手足が動かない
- ✓コミュニケーションが取れない
- ✓寝たきりになる



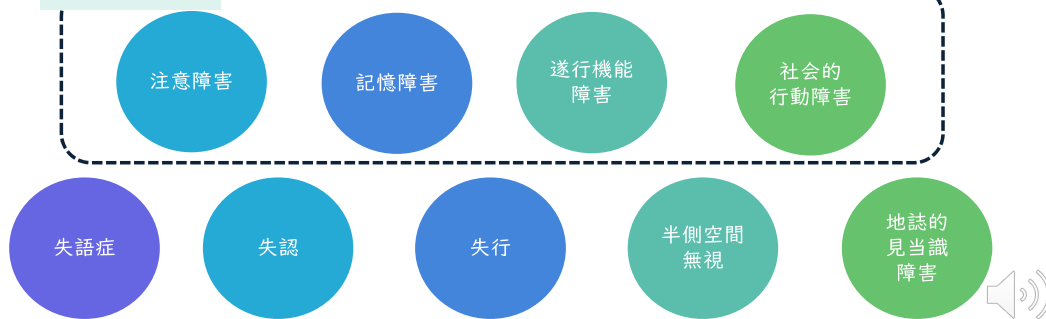
外見からは分からない困りごと



高次脳機能障害とは

病気や事故により、脳の特定の部位が損傷されて起こる、言語、思考、記憶、注意、感情のコントロールなどの認知機能の障害。

行政的定義



高次脳機能障害とは

様々な症状が絡み合って出現し、日常生活や社会生活に影響

1人として同じような症状の人がいない

= 高次脳機能障害を理解する難しさ

「高次脳機能障害者支援法」令和7年12月公布

- ・障害そのものだけでなく、生活の妨げとなる「社会的な障壁」を取り除くことを支援の柱としている。
- ・我々一人一人が、高次脳機能障害のある人を正しく理解することが求められる

高次脳機能障害の主な原因

- ・脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など）
- ・脳外傷（交通事故、転落など）
- ・脳腫瘍、脳炎、低酸素脳症など

→ 後天性の疾患・・・つまり、ある日突然、誰にでも起こり得る

Aさん50代男性：数分前のことを忘れてしまう

くも膜下出血による記憶障害、注意障害

仕事中に突然頭痛に襲われ、救急搬送。手術により命は助かり、身体の麻痺もほとんど残らなかった。

退院後、「以前のお父さんと違う」と家族が戸惑うようになった。

仕事に戻ると、数分前に頼まれた仕事の内容を忘れてしまい、何度も同じことを聞いたり、簡単な作業でミスが目立つようになった。

Bさん20代女性：性格が変わったみたい

頭部外傷による社会的行動障害、遂行機能障害

歩行中にトラックと衝突して救急搬送。

元々温和な性格で自立心の高い女性だったが、意識の回復とともに、子供のように甘えたり、気に入らないことがあると怒り出したりするなど、性格が変わったように見えた。

両親のいる自宅に戻ると、何もせずにじっとしていることが多く、料理や洗濯などを頼んでも、何から手をつけて良いか分からない様子であった。



Cさん60代女性：スラスラ話すが意味が通じない

脳梗塞による失語症

朝、急に言葉がもつれることに気づき、病院受診。緊急入院となった。

意識もはっきりし、手足の麻痺もないが、家族が話しかけると、よく理解していない様子で、困ったような表情が見られた。本人が話そうとすると、スラスラと話しているようだが、家族には全く意味がとれないことを話し、意思疎通ができなかった。



Dさん40代男性：左側を見落とす

脳出血による左半側空間無視、病識の低下

脳出血の発症後、リハビリで歩行ができるまで改善し、職場復帰を目指して退院した。左側から声をかけても気づかないことが多く、左側のドアに体をぶつけることもあった。

ご本人は困っていることは何もないと感じており、退院後はすぐにでも自分で車を運転して職場に挨拶に行こうと思っていたが、医師や家族から止められてしまった。



様々な高次脳機能障害

Aさん50代男性：
数分前のことを忘れてしまう

くも膜下出血による
記憶障害、注意障害

Cさん60代女性：
スラスラ話すが意味が通じない

脳梗塞による
失語症

Bさん20代女性：
性格が変わったみたい

頭部外傷による
社会的行動障害、遂行機能障害

Dさん40代男性：
左側を見落とす

脳出血による
左半側空間無視、病識の低下



区別が必要な他の疾患や障害

多様な症状：認知症、発達障害、精神疾患と似た症状も

- 認知症：徐々に進行していく
- 発達障害：小児期より症状が見られる
- 精神疾患：脳の直接的な損傷が原因ではない

医療機関で高次脳機能障害と診断されず、日常生活に戻った後に生活に支障が出て気づかれることも少なくない

適切な治療、支援のためには、適切な診断が必要

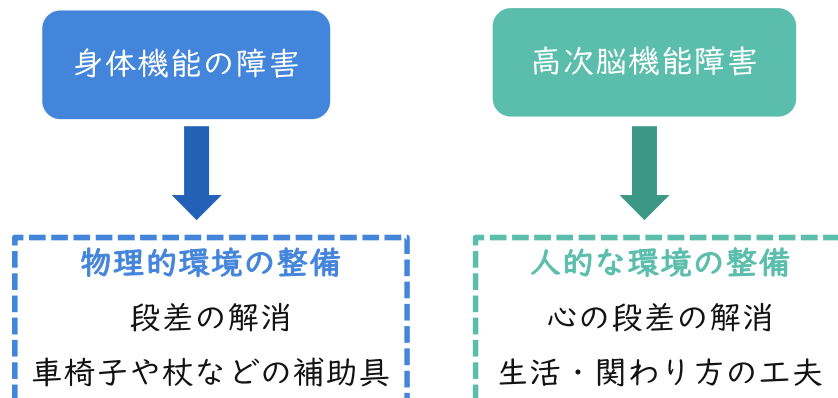


見えないという現実

- 身体に麻痺がない場合も多く、外見からは分からないため、周囲から理解を得られにくい
- 本人や家族でさえ、症状に気づくのに時間がかかることがある
- 環境に左右されやすく、できることもあるため、「怠けている」と勘違いされることもある
- 「もともとの性格」と誤解されることもある



支援のための基本的な考え方



支援のための基本的な考え方

人的な環境の整備

心の段差の解消

周囲の人の症状に対する正しい理解

性格ではなく、「症状」として理解することが第一歩

生活・関わり方の工夫

「できること」に着目し、できる方法やできる環境を整える

この「工夫」を受け入れる周囲の理解が重要



参考資料

1. 高次脳機能障害者支援法（令和7年法律第96号）. 2025年12月公布，2026年4月1日施行
2. 東京都心身障害者福祉センター（編）.（2023）. 高次脳機能障害—改訂第6版—
3. 東京都高次脳機能障害支援普及事業 北多摩北部医療圏事務局（編）.（2020）. 高次脳機能障害ってなんだろう？（改訂版）. 独立行政法人国立病院機構東京病院